令和３年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和３年10月18日
枚方市立蹉跎小学校

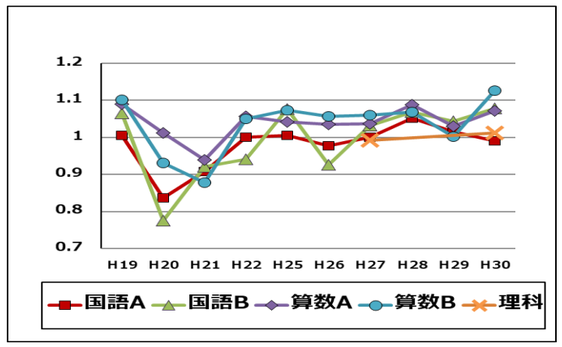
文部科学省が今年５月に実施した、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

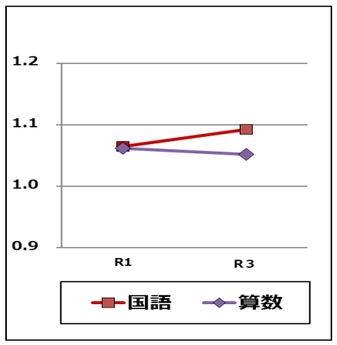
【全体概要】

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。
（※令和元年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。）





＜学力調査結果の概要＞

◆国語、算数ともに平均正答率が、全国平均を上回っています。全国トップの県の平均正答率と同じ正答率となりました。

○国語について

→ 「話すこと・聞くこと」の領域では、全国平均を8ポイント上回っていました。授業の中で対話的な学びを意図的に取り入れている効果が見られました。また、そのことに伴い、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域でも向上がみられました。

一方、「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける」問題や「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」問題では、全国平均の正答率を上回っているものの、正答率が5割を下回り、課題が見られました。

○算数について

→ 「変化と関係」の領域、「データの活用」の領域では、全体的に高い正答率となりました。タブレット等の活用に親しみ、多くの情報に触れる機会が多くなっていることや対話的な学びを通して、他者との考え方やその根拠を交流する機会が増えていることがその要因の一つと思われる。

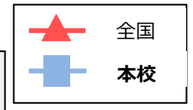
一方、「図形」の領域では、解答の根拠を明確にし、記述することに課題が見られました。

※本調査は、平成 19 年度から実施されています。
※平成 23 年度・令和2年度は中止、平成 24 年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

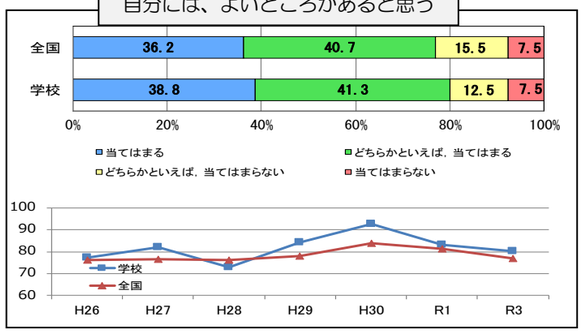
質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合もあります。

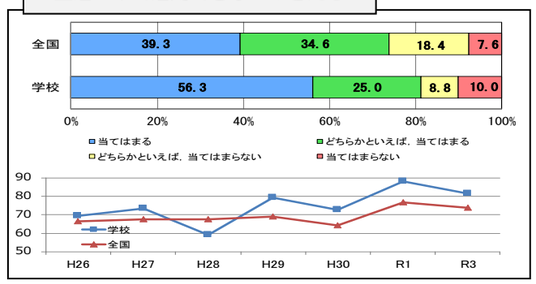
質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



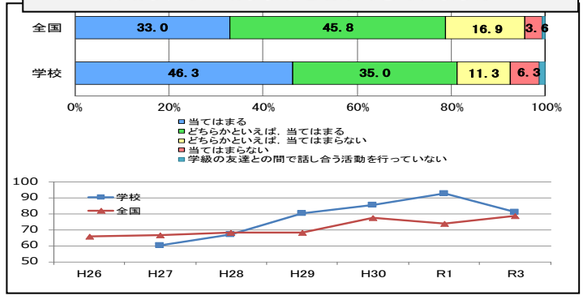
自分には、よいところがあると思う



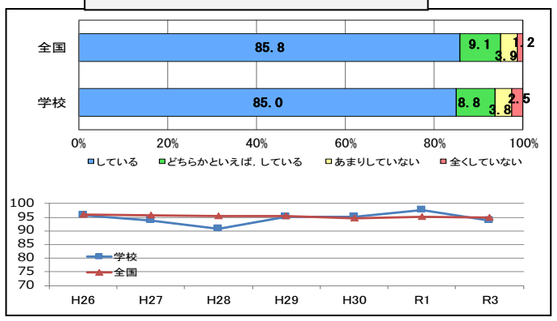
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



朝食を毎日食べている



＜質問紙調査結果の概要＞

自尊感情や自己有用感に関して:「自分には良いところがある」の肯定的な回答割合が、全国の割合よりも上回っているものの、80%程度まで減少しています。今後、学校での教育活動の全てにおいて、教職員が自尊感情及び自己有用感の醸成と達成感の育成をねらいとして取り組んでいきます。

授業改善について:「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の問いに対する肯定的な回答の割合は、全国を上回っています。しかし、経年の変化をみると、下降傾向が見られるため、引き続き授業内容の改善を図るとともに、すべての児童が学級に居場所を認識できる学級経営を進めていきます。

生活習慣について:「朝食を毎日食べている」の回答割合が減少し、全国の割合を下回っています。生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き全児童が朝食を摂る習慣がつくようご協力お願いします。

まとめ

学力調査における本校児童の平均正答率は、全国平均より高い割合を示しています。一方、児童の質問紙調査において、自尊感情や自己有用感に関する質問への肯定的な意見が、例年を下回る結果となっています。今年度は、新型コロナ感染症の影響もあり、学校行事が予定通り行えなかったことも理由の一つと考えられますが、自尊感情や自己有用感を高める取組みへの工夫が不足していたことは否めません。

今後はさらなる授業改善に取組みながら、保護者と学校が一体となり、児童の主体性を育て、豊かな心と確かな学びを育んでいきます。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

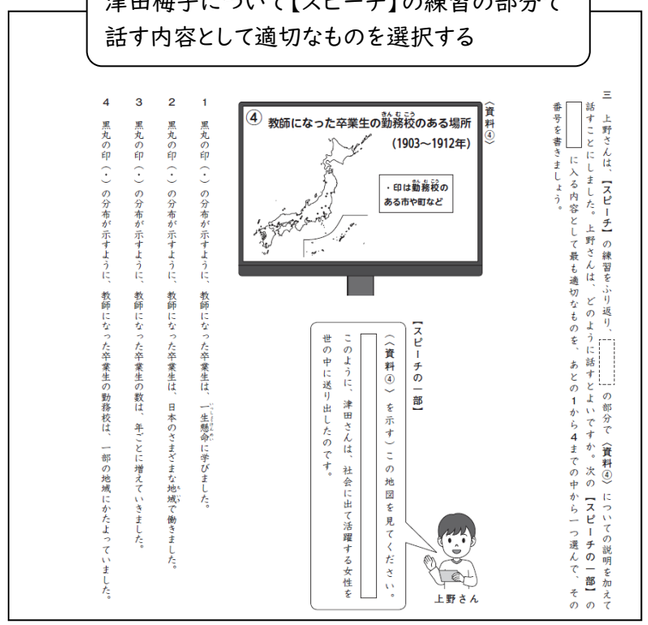
【詳細について】　教科に関する調査

＜国語＞

成果や課題があった設問

【成果】

津田梅子について【スピーチ】の練習の部分で話す内容として適切なものを選択する



	正答率	無解答率
本校	90.0	0.0
全国	80.0	0.4

（考察）

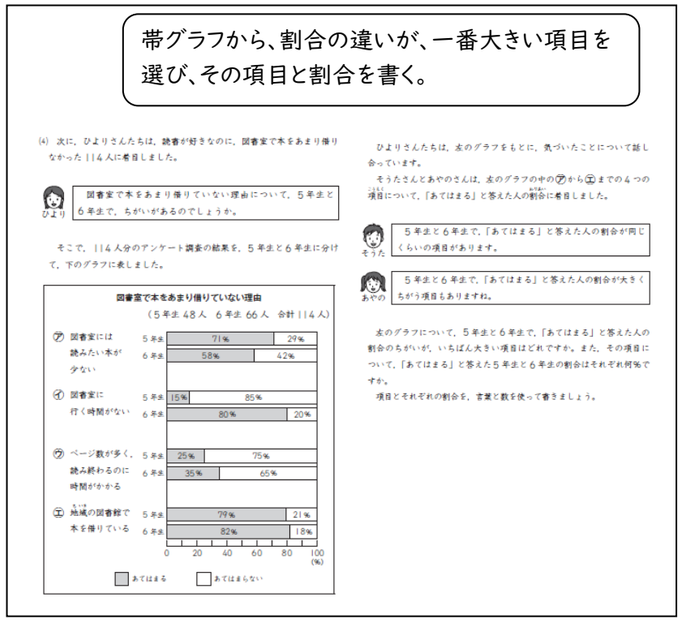
興味をもった人物について調べ、スピーチで紹介し合う場面から、「目的や意図に応じ、資料を使って話すことができるかどうかをみる。」問題において、全国平均より10ポイント高い正答率でした。

話し手の意図を踏まえ、資料を効果的に使って話す内容を捉えることができています。相手意識・目的意識を重視した授業づくりを進めてきた成果と言えます。

＜算数＞

成果や課題があった設問

帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く。



	正答率	無解答率
本校	63.8	5.0
全国	52.0	10.3

（考察）

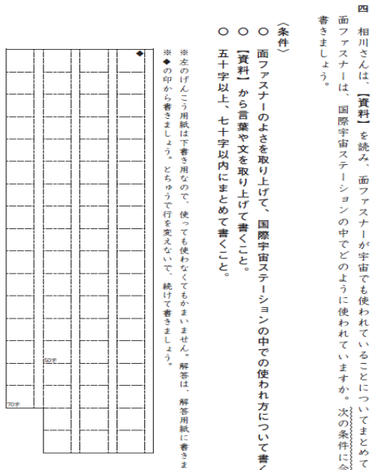
「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる。」かどうかをみる問題において、7割を下回っていたものの、全国平均より11ポイント以上高い結果でした。

複数のデータの中から、目的に応じて必要な項目を選び出し、具体的な数値で比較することができています。

これまで、根拠を明確にして文章が書けるようになる指導を算数科だけでなく、国語科など教科横断的に取り組んできました。そうした指導の成果と言えます。

【課題】

面ファスナーに関する【資料】 を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く。



	正答率	無解答率
本校	40.0	1.3
全国	29.7	5.5

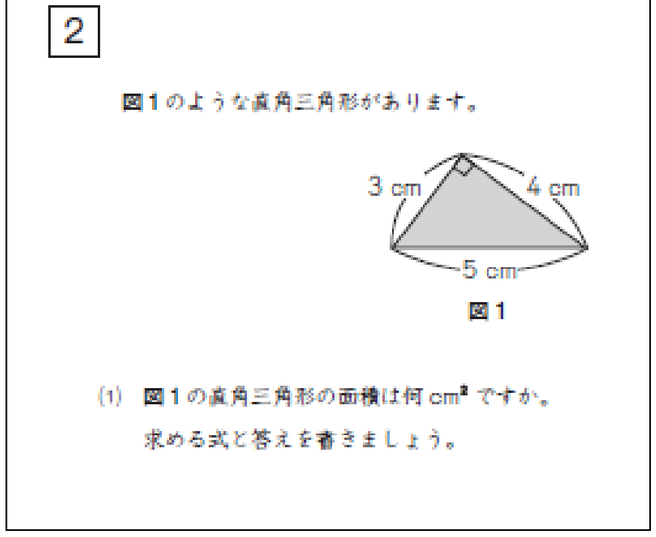
（考察）

「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる。」問題において、全国を上回っているものの、4割の正答率にとどまっています。

この問いに答えるためには、問題に示された3つの条件を満たしている必要があります。条件に合わせて、根拠をもった文章を書くことができるような指導をしていく必要があります。

【課題】

直角三角形の面積を求める式と答えを書く。



	正答率	無解答率
本校	50.0	1.3
全国	55.1	1.6

（考察）

「三角形の面積の求め方について理解している。」かどうかをみる問題において、正答率が全国平均を下回っています。問題形式は短答式問題であることから、公式を理解しておく必要があります。

この問題の場合、底辺及び高さは、それぞれ3cm、4cmとして計算しなくてはいけません。今回誤答と判断された児童の大半が、高さ5cmと捉えて立式していました。公式を理解するときには、その意味をしっかりと理解できるような指導をしていく必要があります。

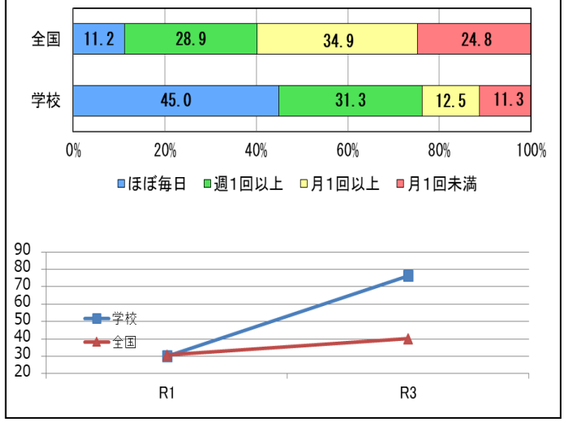
質問紙に関する調査

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合もあります。

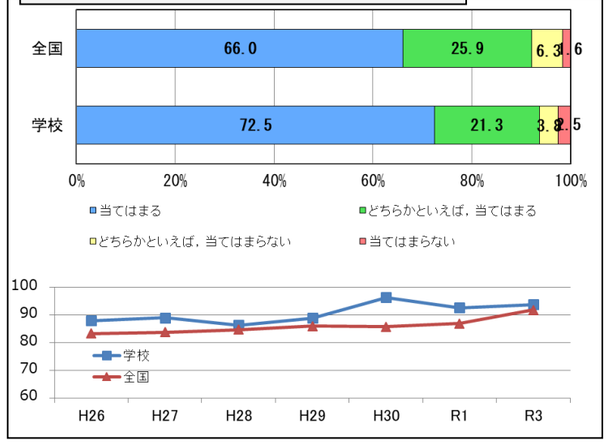
全国
本校

【成果のあった項目】

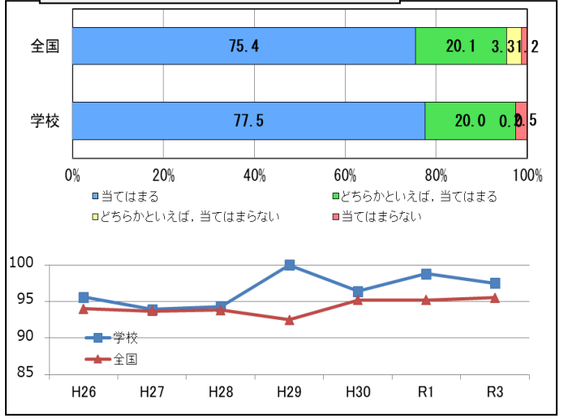
5年生までに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか。



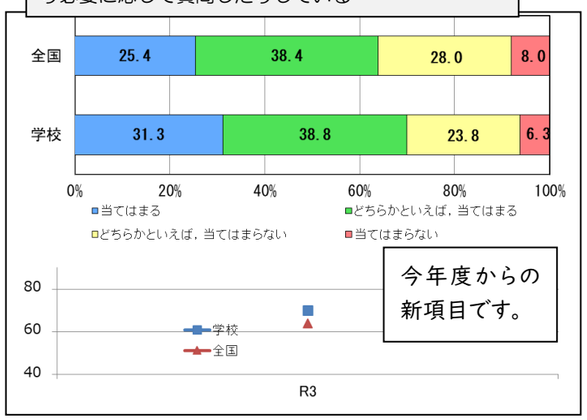
算数の授業で，問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



人の役に立つ人間になりたいと思う



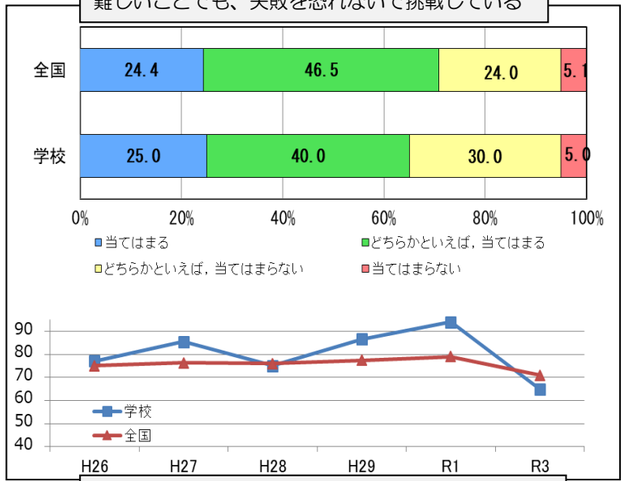
国語の授業では，目的に応じて，自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている



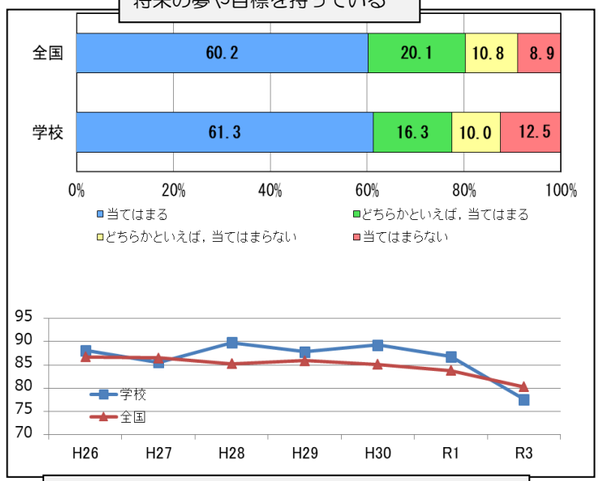
今年度からの新項目です。

【課題のあった項目】

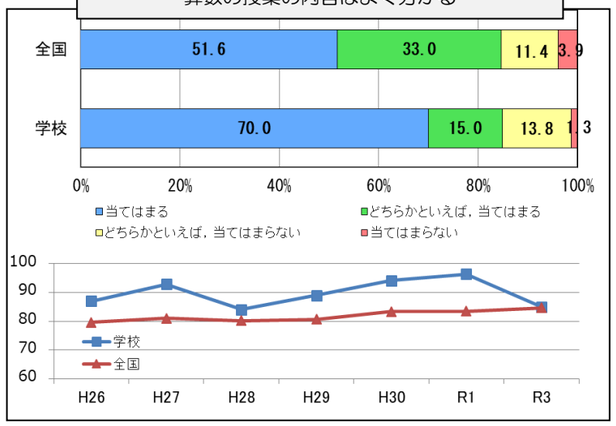
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している



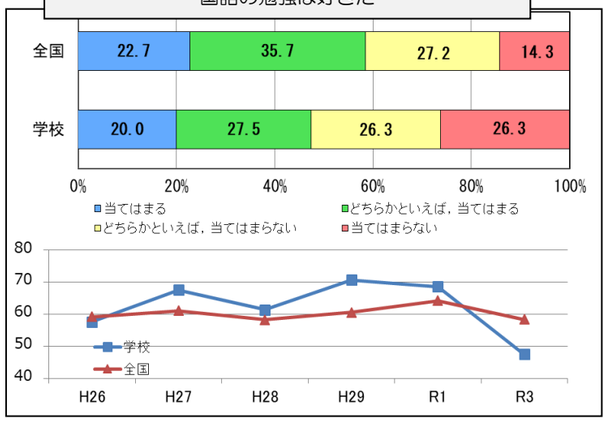
将来の夢や目標を持っている



算数の授業の内容はよく分かる



国語の勉強は好きだ



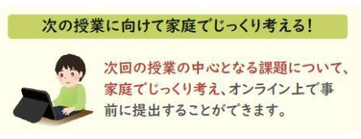
分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

・今年度は国語科を中心に、以下の3点を研究内容として設定して、全教職員による授業研究に取り組んでいます。

（1）協働的な学びの充実
○相手意識・目的意識を持った学習の場の設定
○多様な他者と協働しながら、新たな考えや価値を生み出すこと。

（2）個別最適な学びの充実
○個に応じた課題の提示・手立て
○子ども自身が自らの興味・関心に応じて学習を進める。

（3）シームレスな学びの充実
○授業と家庭学習を効果的につなげ、授業を「教室だからこそできること」に焦点化させる。



・各学年に応じたきめ細かな取組みで基礎基本と活用の力を定着させます。【算数マスター、パワーアップ問題（記述式）、慣用句・四字熟語に親しむ 等】
・さだ小チャレンジテストを実施し、その結果を日々の指導に活かします。
・「Hirakata 授業スタンダード」に基づき、タブレット端末を活用し、家庭学習で考えたり・解いたりしてきたことをもとに、授業での話し合ったりする機会や振り返る時間を確保します。
・保護者と「家庭学習の手引き」を共有し、自学自習力の育成をめざすとともに、宿題の量や質を充実させていきます。

【児童質問紙調査についての考察】

本校では、【全体概要】 や上記グラフにあるように、「自分には、よいところがあると思う」「人の役に立つ人間になりたい」と考えている児童が、全国平均よりも多いことが分かります。これは、各ご家庭での取り組みや学校教育への協力体制が整っていることが大きいと考えられます。引き続きのご協力をお願いします。また、上記の「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」「将来の夢や目標を持っている」の項目では、肯定的な回答率に減少傾向が見られます。今後学校では、児童一人一人の良さを見出し、認め、声をかける、といった教職員の日常的な取組みを継続し、児童の意欲や目標、友達への思いやりを育てていきたいと考えています。

授業については、上記グラフのように「考え方がわかるようにノートを書いている」「目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている」では、全国平均を上回っており、本校のすすめる授業改善の取り組みの成果と考えられます。一方「算数の授業の内容はよく分かる」「国語の勉強は好きだ」の項目では、減少傾向が見られます。こうした課題への対策として、授業の内容をしっかり身に付けていく手立てを工夫していくとともに、学ぶ楽しさや、学ぶ意味を児童が主体的に掴んでいけるように授業改善を図っていきます。